

報告 第9回 えんとつフェスティバル2011



「環境」と「地域交流」を基調に「つなげよう資源の輪 広げよう地域の和」をテーマにしたイベント「えんとつフェスティバル2011」が昨年の10月8日(土)に開催されました。

今年度は、朝から澄み切った秋の空となり、たくさんの方々にご来場いただき、おかげさまで盛況のうちに終了することができました。

当日は、フリーマーケットやごみ収集体験などが行われ、特に模擬店や舞台では、初めての試みもいくつかあり、来場者のみなさま方に好評でした。



みなさんの清掃工場を見学してみませんか

衛生組合では3市から収集された可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみを処理していますが、その量は1日当たり201t(平成22年度)にもなります。

各家庭から出されたごみはその後どのように処理されていくのか、ごみの減量・分別がなぜ大切なのかなど、清掃工場を見学しながら学んでみませんか？

○通常の見学コースの所要時間は90分程度です。

○見学できる日は、火・水・金曜日(祝日・年末・年始を除く)です。

○見学には事前予約が必要です。申込は10人以上でお願いします。(10人未満の場合は要相談)

【見学申込先】 総務課 (☎042-341-4345)

■見学実績(平成23年4月～平成24年1月)

	小平市		武蔵村山市		東大和市		その他		合計	
	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数
小学生	882	11	382	4	741	8	-	-	2,005	23
一般	51	14	59	9	42	10	81	2	233	35
合計	933	25	441	13	783	18	81	2	2,238	58

● 昨年の夏期の電力不足への対応結果について

東日本大震災に伴う電力不足への対応のため、昨年の夏、衛生組合は、契約電力500kw以上の大口需用家として、電力使用制限を受けました。この夏期電力使用制限は、7月1日から9月9日までの期間、ピーク時間帯(9時～20時)の1時間当たりの使用電力の最大値について、対前年度比85%を上限(削減率15%)とするもので、衛生組合では、3炉ある焼却炉の内、主力の3号炉(150トン/日)の運転を停止、4号炉及び5号炉(105トン/日×2炉)でごみ処理を行うなど、大規模な節電対策を行いました。また、期間中、処理能力が低下することから、3市市民の皆さんには、ごみを出さない生活の工夫など、ごみの減量をお願いしました。

これらの対策の結果、ごみの処理が滞ることなく、ピーク時においても対前年度比23%以上の電力削減をすることができました。

衛生組合では、現在も設備の運用改善、照明や空調などの節電に努めています。引き続き、ごみの減量にもご協力をお願いします。

● まちの話題

写真は、武蔵村山市立野山北公園に咲いている「カタクリ」の花です。例年3月下旬から4月上旬に見ごろを迎え、約2万株の群生をお楽しみいただけます。

また、この季節は、周辺の山の桜も咲きだし、市立野山北公園は1年で一番美しい季節を迎えます。近くには、「あそびの森」や「冒険の森」(都立野山北・六道山公園)があり、ご家族そろって丸1日楽しめます。

ぜひ、カタクリの花に会いに来てください。

なお、市立野山北公園への行き方については、武蔵村山市役所秘書広報課☎042-565-1111(内線314)におたずねください。

お知らせ
連絡協議会の会議録を中心とした、広報「えんとつ」地域版を3月下旬に発行します。
ご希望の方は、衛生組合 計画課(☎042-341-4345)までご連絡ください。

ゆず湯で足元あったか

毎年好評となっている「ゆず湯」を平成23年度も実施しました。期間は12月23日から25日までの3日間。寒さが身にしみ始める季節、足元から冷えた体を温め、大勢の利用者の皆さんに喜んでいただきました。



発行
小平・村山・大和衛生組合
187-0033 小平市中島町2番1号
電話 042-341-4345
平成24年3月発行

小平・村山・大和衛生組合は、小平市・東大和市・武蔵村山市3市の市民生活から出るごみを処理する清掃工場を、管理運営する一部事務組合(特別地方公共団体)です。

VOICE 編集後記

今年の冬は厳しい寒さが続き、記録的な大雪で被害が相次ぎました。衛生組合周辺でも3回ほどの降雪があり、ごみ収集車が追突やスリップ事故を起こさないよう、道路の除雪を行っています。また、去年の夏は猛暑が続き、暑くて大変だとおっしゃっていたのに、冬になれば寒いとか、雪が降れば交通網がマヒして大変だと言っている方が多くいます。

東京に降る雪はごくわずかですが、積もっても子供の遊び道具になる程度、早く解けてくれるのを待つだけです。しかし、新潟県の豪雪地方ではこの迷惑な雪(ゆきだまり)によって、天然冷蔵庫として有効に利用している地域もあります。また最近では雪や冷たい外気を使って凍らせた氷を保管し、冷熱が必要となる時に利用する氷雪熱利用という自然エネルギー活用技術が開発され、北海道を中心に普及しているのです。

東京に住んでいる私たちがこの「雪は積もると大変なもの」という捉え方は、雪の一面しか見ていないのでしよう。しかし一方で、豪雪地方の方々にはお叱りを受けたいと思います。この迷惑な雪を受けければ貴重な水資源にもなります。

ところで、冬場には「節電」が声高に聞こえてきます。暖房の熱源には灯油やガスが使用でき、夏場より消費電力が少ないからでしょう。我が家ではエアコンを使用していますが、朝まだ子供が寝ている時間帯には重ね着をして暖房を止めておくことで、この冬は無理のない程度の節電を心がけました。昨年の計画停電時の不便さを忘れないためにも。

東日本大震災から1年、エネルギーのこと、資源のこと、そして節電のこと、改めて考える機会をもちたい。

小平・村山・大和衛生組合

えんとつ No.30

《No.30主な内容》

- ・「ごみ」処理の現場から～これが焼却灰?～
- ・平成24年度一般会計予算及び平成22年度一般会計決算

小平・村山・大和衛生組合は、3市のごみを処理している清掃工場です。



まちの話題 武蔵村山市



早春の野山に咲き乱れるこの花の名前は?

小平・村山・大和衛生組合議会情報

平成23年11月定例会（11月22日開催）

議案番号	内 容	議決結果
議案第8号	平成22年度小平・村山・大和衛生組合一般会計歳入歳出決算の認定について	認定
議案第9号	平成23年度小平・村山・大和衛生組合一般会計補正予算（第1号）	原案可決

平成24年2月定例会（2月17日開催）

議案番号	内 容	議決結果
議案第1号	小平・村山・大和衛生組合監査委員の選任につき同意を求めることについて	同意
議案第2号	小平・村山・大和衛生組合非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第3号	小平・村山・大和衛生組合職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第4号	平成23年度小平・村山・大和衛生組合一般会計補正予算（第2号）	原案可決
議案第5号	平成24年度における小平・村山・大和衛生組合を組織する市の分担金額について	原案可決
議案第6号	平成24年度小平・村山・大和衛生組合一般会計予算	原案可決
議案第7号	東京都市町村議会議員公務災害補償等組合を組織する地方公共団体の数の増加及び東京都市町村議会議員公務災害補償等組合規約の変更について	原案可決

なお、会議録につきましては、作成次第、衛生組合のホームページに掲載しています。

平成23年度情報公開の状況

情報公開制度は、すべての人に衛生組合が保有する文書等の情報の公開を求める権利を保障するものです。情報公開を希望される方は、総務課（4・5号ごみ焼却施設3階組合事務所）にて公開の請求手続きを行ってください。

平成23年度の公開状況は右のとおりです。

請求件数	4件
公 開	1件
一部公開	3件
非 公 開	0件
不 存 在	0件
公開率*	100%

期間：平成23年4月1日～平成24年1月31日

*公開率 = (公開 + 一部公開) ÷ (請求 - 不存在)

環境大気のダイオキシン類の測定結果

衛生組合では、立川市清掃工場と連携して、清掃工場周辺の大気中のダイオキシン類濃度の測定を、夏季と冬季の年2回実施しています。平成23年度夏季分は、平成23年8月10日から8月17日の間、連続で試料を採取しました。



焼却灰等の放射性物質濃度及び空間放射線量の測定結果

衛生組合では、「主灰、飛灰、排ガス」の放射性物質濃度と敷地境界「東西南北4カ所」における空間放射線量の測定を定期的実施しています。測定結果は、ホームページでもご覧になれます。

■放射性物質測定結果 (単位 主灰・飛灰：Bq/Kg、排ガス：Bq/m³)

採取日	主灰	飛灰	排ガス
平成23年8月25日	159	1,022	不検出
平成23年9月14日	177	1,482	不検出
平成23年10月13日	179	1,377	不検出
平成23年11月14日	135	1,002	不検出
平成23年12月14日	148	1,408	不検出
平成24年1月16日	71	720	不検出
平成24年2月14日	56	779	不検出

■空間放射線量 測定結果(地上高さ1m、3回測定の前平均値) (単位 μSv/h)

測定日	東	西	南	北
平成23年8月25日	0.078	0.081	0.061	0.075
平成23年9月14日	0.083	0.084	0.067	0.069
平成23年10月13日	0.076	0.086	0.065	0.078
平成23年11月14日	0.074	0.076	0.060	0.068
平成23年12月14日	0.068	0.076	0.066	0.073
平成24年1月5日	0.073	0.078	0.066	0.076
平成24年1月12日	0.076	0.082	0.063	0.067
平成24年1月16日	0.087	0.086	0.066	0.079
平成24年1月23日	0.076	0.091	0.066	0.075
平成24年1月30日	0.075	0.070	0.052	0.073
平成24年2月14日	0.075	0.076	0.063	0.080

※1 主灰は、焼却炉の灰出設備から排出される灰
 ※2 飛灰は、焼却炉の集じん器（バグフィルター）で捕集された灰
 ※3 主灰・飛灰の数値は、「放射性セシウム134」「放射性セシウム137」の合計値「放射性ヨウ素131」については不検出（国が示す埋立処分を可能とする放射性物質の暫定基準値は8,000Bq/Kg以下）
 ※4 排ガスは、「放射性ヨウ素131」「放射性セシウム134」「放射性セシウム137」のいずれも不検出
 なお、採取日が異なるため、ホームページで確認して下さい

「ごみ」処理の現場からこれが焼却灰？



厄介な鉄くず



左の写真は、焼却灰の中から取り除いた鉄くずの山です。ごみを焼却した後に発生する焼却灰は、日の出町にある東京たま広域資源循環組合に運び込み、「エコセメント」に加工され、土木・建築資材などとして再び利用されます。しかし、衛生組合から発生する焼却灰は、そのまま資源循環組合に運ぶことができません。その理由は、資源化することのできる金属類が多く含まれているためです。

3市の「可燃ごみ」

「可燃ごみ」は、私たちの家庭から、「燃えるごみ（小平市・東大和市）」、「燃やせるごみ（武蔵村山市）」として排出され、衛生組合に運ばれます。「可燃ごみ」は、その名前のとおり、調理くずや食べ残しなどの厨芥、草や木、汚れて資源化できない紙やプラスチックなど、燃える、燃やせるごみの分別区分です。



平成22年度に3市から搬入されたごみは7万4千トン、そのうち可燃ごみは、6万4千トン（ごみ全体の86%）でした。なお、缶やビンなどの資源は、それぞれの市で処理されていますので、衛生組合には搬入されないことになっています。

可燃ごみの処理



可燃ごみは、粗大ごみ及び不燃ごみを破碎・選別した後の可燃物とともに混ぜ合わせ、ごみ焼却施設で燃やされます。平成22年度は7万2千500トンを焼却しました。食べ残しなどに混じりスプーンやフォーク、汚れた紙に包んでおいたハサミや空き缶など、ちょっとうっかりというものもあるでしょう。しかし、こんなにたくさん資源ごみが含まれ、中にはどうしてもこれが可燃ごみの中に入れられたのか理解できないものもあります。

焼却灰の選別

毎日排出される大量の焼却灰には、金属くずが含まれているため、そのままではエコセメント化施設への搬入はできません。衛生組合では、平成11年度に灰選別機を設置し、平成15年度からはこれに加えて手選別ラインを増設、人力による徹底した金属類の選別・除去作業を行っています。その量は、年間1千100トン、焼却灰の中には11%以上もの金属類が含まれています。



また、大型の金属、針金状の金属くずは、焼却炉や選別装置への巻き込みや噛み込みなど、故障の原因ともなっています。

分別ルールは約束事



私たちは、資源やごみの排出者として、ごみの収集、運搬、処理、処分の過程（ごみ処理システム）で、破碎、選別、焼却、エコセメント化など多くの技術を利用して効率的なごみ処理をし、その過程で電力をはじめとするエネルギーや貴重な資源を消費しています。ごみの排出区分、排出方法などの分別ルールは、処理施設である衛生組合と3市市民の約束です。このルールがごみ処理システムの設計や処理施設の維持管理の基本となっています。お住まいの市の分別ルールを確認してください。「ちょっとうっかり」「このくらいなら」と混ぜられた鉄くずなどは、ごみ処理システムのトラブルの原因、無駄なエネルギーや資源の消費につながってしまいます。

こんなものにも困っています！

可燃ごみは、900℃前後で燃やされます。高温とすることでごみは衛生的な灰となり、重さも1/8とすることができます。また、ダイオキシン類を分解し、発生を抑制することもできます。しかし、逆に高温となることで、焼却炉の安定運転に支障をきたすものもあります。

アルミくず
 アルミが溶けるのは660℃、ごみ焼却炉には適度な燃焼用空気を送り込みますが、この部分に溶けたアルミが詰まります。

ガラスくず
 ガラスは700℃程度からやわらかくなり、焼却灰を取り込んで焼却炉内に付着（「クリンカ」と呼ばれます）し、炉の容積を狭め、焼却能力を低下させます。

ほんの少しの量でも、大量に処理している施設では、燃焼用空気を送るためにアルミ清掃や、炉内のごみのつまりを防ぐためにクリンカ清掃が、定期的に必要になっています。